

新任薬剤師研修会 (オンライン開催) を開催して

西新潟中央病院 村上 明男

一昨年に海外から端を発した新型コロナウイルスによって世界全体の生活様式、衛生観念、人との関わり方やコミュニケーションが大きく劇的に変わってしまいました。

医療従事者における身体的、精神的な負担は計り知れないものがあり、私たち薬剤師の日々の生活も変化を強いられています。各種学会は中止またはweb開催でのオンデマンド方式へ変更となり、人と人との接触は避ける事になっています。それに伴い学会の醍醐味でもある対面式での交流や懇親会が出来ずに残念に思います。

この流れは関信地区国立病院薬剤師会の内部においても同様で、昨年度は総会、例会、研修会が中止となっています。元々、従来の総会、例会、各種研修会の参加者の低迷が問題となっており、それに追い打ちをかける形で新型コロナウイルスによって関信地区国立病院薬剤師会の強みでもある横の繋がりや継続の危機となっていました。この問題を解決する為、前関信地区薬剤師会会長である山口正和先生の指示もあり「研修会等あり方会議」が立ち上がりました。このあり方会議はコロナ禍における開催方法、開催目的について改めて考える良い機会となっています。例会、総会に関しては薬剤師としての知識の研鑽もありますが、それ以上に人と人との交流を重ねる事が重要な側面を担っています。

人的交流については抑制または控える方針となっている昨今の状況を鑑みるとこちらの側面は抑えていかなければならない中で、どの様にして

知識の研鑽および、総会、例会を維持していくかの検討が行われました。関信地区国立病院薬剤師会及び教育研修部内の主な行事として、総会、例会、各種研修会の開催方針としてはweb研修会方式を導入しオンラインで行う事となりました。(詳細については薬剤師会誌2021 Vol.17 No. 2 参照)

その様な中、教育研修部の今年度の計画として『新任薬剤師研修会』『スキルアップ研修会』『第87回例会』をweb形式にて開催する事が決定しており、今回私は『新任薬剤師研修会』の担当として携わらせていただいたのでその内容について報告します。

今年度の開催については午前、午後の2部制としており午前は今年度、午後は昨年度の新任薬剤師を対象として行いました。近年、新任薬剤師研修会では『医療安全』について約半日かけて行われ、前半の医療安全についての講義(今年度は国立がん研究センター中央病院 赤木 徹先生より『医療安全とは』)と後半のSGD (Small Group Discussion) に大きく分かれており、後半のSGDは各グループに分かれて対面式での討論を醍醐味としており、それをいかにしてweb形式で行える様にするかが大きな問題点であります。大きな変更点としてはその年に配属された新任薬剤師同士の初めての顔合わせとなる為、緊張を和らげ、討論を活発に行える様にするアイスブレイク的な部分兼『チームSTEPPS』の講義に繋がるイントロにもなるグループワーク、また医師、薬剤師役に

別れ演じて貰うロールプレイの部分をほぼ削る結果となりました。削除した項目としては同じグループ内でペアを作りその相手と指相撲勝負し多く勝つ事をめざす事（アイスブレイクの要素）やグループの協力作業として紙で作った輪を繋げていく鎖状にする作業（講義に繋がるイントロ的要素）。詳細はグループで紙の輪を作成し1名は観察者となり残りの人が作業を行う。1回目は2分間で繋げた数をグループ間で競って貰う。次に2回目では行動に制約をかけ、利き手を使わずかつ利き手は後ろに回して行い、観察者は両手を使わない様に注意をして貰います。最後の3回目では利き手は使わずかつ会話も禁止として行います。一見単純な作業にも見えますが、観察者には『誰がリーダーシップを取っているか?』『各メンバーの役割は明確か?』『他のメンバーをお互いに支援・助け合っているか?』『誰かチームの全体の状況を把握しているか?』などの項目を確認して貰います。新任研修会の内容は『チーム STEPSS』チームとしてどの様に医療安全を行っていくかがテーマですので、それをアイスブレイクも兼ねつつ落とし込み、認識して貰う内容になっていました。3回行って貰いそれぞれの回で1番だったチームにはお菓子を進呈して、チームでの達成感を感じても貰っていました。このように楽しみながら次の講義に繋がる部分が出来なくなった事により、知識としての座学内容に偏りがちになってしまったのは残念に思います。

またもう一つの醍醐味であった、医師、薬剤師に別れてのロールプレイでは医師へ対する疑義照会のケースとして、インスリンの用法、高カロリー輸液の末梢投与、メプチン投与量の単位間違いの3つのケースについて講義の合間に行う予定となっていました。

講義で説明した『チーム STEPSS』ツールである、

- ①SBAR：医療者チーム間でのコミュニケーションにおいてどんな要素を伝えると効果的か明示した物
Situation 状況（患者さんに何が起きているか?）

Background背景（臨床的背景と状況は何か?）

Assessment 評価（何が問題だと思うか?）

Recommendation/Request 提案・要求（それを解決するには何をすれば良いか?）

- ②2回チャレンジルール：必ず繰り返してそれらを指摘する

情報や状況における不確実要素について少なくとも2回は声に出して確認を行う方法

- ③CUS：不安なことは不安であると躊躇せず表現する

I am Concerned（気になります、心配です）

I am Uncomfortable（不安です）

This is Safety issue（安全の問題です）

段階的に安全に対する不安感を伝える方法

上記についてすぐその場でロールプレイによって追体験、行動する事で学習力は飛躍的に高める事が出来たと思いますが、残念ながらこちらについても削る形になっています。

今回のweb開催では時間的な制約が大きかった為、上記の部分に関しては変更を行い講義および動画による病棟シナリオ（講義で紹介したツールを用いたチームでの医療安全の成功例、失敗例）視聴後のSGDによる討論のみに重きをおく形に大幅に変更となりました。

Web形式に変更した利点としては、研修会参加者には紙媒体でのアンケートに答えて貰っており、集計に時間がかかっていたのですが専用のアンケートフォームに入力をして貰う事ですぐに結果を知る事が出来る様になった事はとても便利に感じました。

以下にアンケート結果の一部を掲載します。

薬剤師1年目（N=48）アンケート回収率：48名（100%）

Q1 研修の内容は理解できましたか？

とても理解できた25%、やや理解できた75%

Q2 テーマに対して興味を持ってましたか？

とても興味を持てた79.2%、やや興味を持てた20.8%

Q3 新しい知識を得ることが出来ましたか？

とてもそう思う64.6%、ややそう思う33.3%、ややそう思えない2.1%

Q4 自分の業務に役立つと思いますか？
とてもそう思う89.6%、ややそう思う8.3%、どちらともいえない2.1%

Q5 あなたは今後WEBでの研修会に参加したいですか？

参加したい54.2%、やや参加したい33.3%、どちらともいえない12.5%

Q6 全体を通して今回の研修会の満足度はどのくらいですか？

とても満足43.8%、やや満足52.1%、どちらともいえない4.2%

薬剤師2年目 (N=39) アンケート回収率：38名 (97.4%)

Q1 研修の内容は理解できましたか？

とても理解できた71.1%、やや理解できた21.1%、どちらともいえない5.3%、全く理解できなかった2.6%

Q2 テーマに対して興味を持ってましたか？

とても興味を持ってた76.3%、やや興味を持ってた15.8%、どちらともいえない5.3%、やや興味を持ってなかった2.6%

Q3 新しい知識を得ることが出来ましたか？

とてもそう思う47.4%、ややそう思う50%、ややそう思えない2.6%

Q4 自分の業務に役立つと思いますか？

とてもそう思う71.1%、ややそう思う23.7%、どちらともいえない2.6%、全く思わない2.6%

Q5 あなたは今後WEBでの研修会に参加したいですか？

参加したい34.2%、やや参加したい26.3%、どちらともいえない31.6%、やや参加したくない5.3%、参加したくない2.6%

Q6 全体を通して今回の研修会の満足度はどのくらいですか？

とても満足42.1%、やや満足47.4%、どちらともいえない10.5%

新任研修会参加者アンケート結果引用（一部抜粋）詳細はHPをご覧ください。

結果として新任研修会参加者の満足度的には過半数以上から概ね納得のいく評価得られた事は私

にとって安心に繋がりましたが、改善点が多く残る内容だったと思います。

今回のweb形式開催を通して私が感じた部分としては

メリット

- ・web形式だと参加が容易（時間的、経済的な部分を考慮しなくて良い）
- ・コロナ禍でも交流の機会を作る事が出来る

デメリット

- ・対面式と異なり相手の反応が分かりにくく、話を進める際に理解しているかどうかの判断難しい（チューターなどがいないと討論が難しいかもしれない）
- ・web形式による通信環境による不具合（画像や音声途切れたや接続不良など）

改善点

- ・従来であれば時間を十分に確保してのSGDであったが、今回はweb形式との事もありSGDの時間が短く、参加者にとって討論時間が短くなってしまった。

今回のアンケート内容は教育研修部が開催する今年度の事業計画にとって貴重な意見となりますので、これから事業計画内容にしっかりと反映し、参加希望者にとって実りある研修会にしていきたいと思います。

最後にコロナによる混乱の収束が見通せず、不安や業務負担が増えていく中でweb形式による研修会を開催した事により、関信地区国立病院薬剤師会にとって新しい手法による試みがなされ試金石となる内容を実行する事が出来ました。集合研修形式では可能であった受講者同士の深い交流を持つ事は未だ出来ませんが、web形式で人と人が繋がって学習し、討論を行う事が出来たのは大きな成果であったと思います。コロナ禍で世界的にも従来の生活様式からの劇的な変化が生じており、その変化に適応する第一歩になったのではないだろうかと考えています。直接的な人の交流

を避けざるを得ないこの状況の中で、関信地区国立病院薬剤師会としての強みである横の繋がりを維持、確保出来た事は大いなる喜びと同時に勇気づけられ経験となりました。まだまだ終わりの見

えないコロナ禍の中で本当に心身ともに苦勞し大変ですが、関信地区国立病院薬剤師会全員が一丸となりこの壁を乗り越えられる様に願っています。

